

第45回 横浜みどりアップ計画市民推進会議 会議録	
日 時	令和8年3月19日（木） 10時00分から12時00分まで
開 催 場 所	市庁舎18階 共用会議室みなと1・2・3
出 席 者	池島委員（web）、池邊座長、岩本委員、内海副座長、大竹委員、金井委員、河原委員、菊池委員、北原委員、小金井委員、酒井委員、竹内委員、飛田委員、野路委員、樋上委員、望月委員（五十音順）
欠 席 者	石原委員
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	1 横浜みどりアップ計画の進捗状況について 2 市民推進会議2025年度報告書骨子案について
議 事	（事務局） 定刻となりましたので、会議を始めます。私は、本日の進行を務めます、みどり環境局戦略企画課担当課長の岩間です。よろしくお願いいたします。委員の皆さまにはお忙しい中、お集まりくださいまして誠にありがとうございます。それでは、ただ今より、「第45回横浜みどりアップ計画市民推進会議」を開催します。 まず、本日の会議についてご報告いたします。本会議は、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第5条第2項の規定により、半数以上の出席が会議成立の要件となります。委員定数17名のところ、本日はウェブも含めて16名ご出席いただいておりますので、会議が成立することを報告します。また、本会議ですが、要綱8条により公開となっております。会議室内に傍聴席と記者席を設けています。会議録についても公開いたしますので、委員の皆さまには事前にご了承をお願いいたします。また、会議録の各発言には委員名を表記すること、会議中に撮影した写真を横浜市ホームページや広報誌等へ掲載することも、併せてご了承ください。 では、席上にお配りした資料を確認いたします。次第、資料1の「市民推進会議2025年度報告書（骨子案）」です。また、閲覧資料として、本日使用するスライドと参考資料、データ等の冊子をとじたフラットファイルをお配りしています。こちらは会議中にご覧いただく資料ですので、会議後は机上に戻してください。クリアファイルには、議題3「その他」で使用する資料が入っています。また、広報・見える化部会で検討・作成いただいたポストカードもお配りしています。なお、このポストカードは一人10枚、ご希望があれば、必要な枚数をお配りしています。 そして、本日から開催する「ガーデンネックレス横浜2026」、里山ガーデン、GREEN×EXPO 2027と、3種類のパンフレットも配布しています。不足の資料等がありますか。何かあれば、事務局にお知らせください。 また、本市の出席者については、フラットファイルにとじてある「席次表」に記載していますので、事務局等のメンバーをご確認ください。 それでは、事務局を代表して担当理事の藤田よりごあいさついたします。

	(事務局) 委員の皆さま、おはようございます。 (一同) おはようございます。 (事務局) ご紹介いただきました、みどり環境局、担当理事の藤田でございます。本日は年度末の大変お忙しい中、横浜みどりアップ計画市民推進会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。2024年からスタートした第4期のみどりアップ計画は現在、2年目の終盤であり、4月からは折り返しとなる3年目を迎えます。多くの市民や関係者の皆さまのご理解、ご協力の下、引き続き、着実に事業を進めてまいりたいと考えております。 また、先ほど、紹介されたとおり、本日、3月19日はGREEN×EXPO 2027の開催までちょうど1年となる節目の日です。この特別な日に、皆さまと横浜の緑の未来について意見交換できることを大変うれしく思います。さらに、毎年恒例の「ガーデンネックレス横浜2026」も、GREEN×EXPO 2027の開催1年前に合わせ、本日よりスタートいたします。 今年の春は、「GREEN×EXPO 2027 1年前の幕開け」をテーマに、山下公園等の都心臨海部をはじめ、郊外部の里山ガーデンの花と緑で彩られる横浜ならではの風景をぜひともお楽しみください。「ガーデンネックレス横浜2026」の取組をはじめ、みどりアップ計画の各取組を効果的に進めて、GREEN×EXPO 2027にしっかりとつなげてまいりたいと考えています。 本日は、みどりアップ計画の令和7年度の進捗状況に加えて、主な取組についてご説明いたします。ぜひ、積極的なご議論をお願いいたします。以上、簡単ではございますが、私からのあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 (事務局) 事務局からは以上です。 この後の進行は池邊座長をお願いいたします。池邊座長、よろしく申し上げます。 (池邊座長) お久しぶりです。あらためまして、皆さま、本日もよろしくお願いいたします。きょうはGREEN×EXPO 2027の開催まで1年となる3月19日ということで、私のワードローブの中では珍しいピンクの服を着てきました。馬車道を通ったら、ちょうど舞台設営をやっていました。私もGREEN×EXPO 2027に参加予定でして、4月1日から瀬谷の現地に入ります。いよいよ始まるなという感じがしております。 しかしながら、私たちは浮かれてばかりはいられません。現在、古い公園のリニューアルの必要性や特別緑地保全地区における倒木、竹林化など、さまざまな問題が生じています。それらの問題にどのように対処していくかといったことにも切り込んでいきたいと思いますので、また来年度もよろしくお願いいたします。 それでは、早速、次第に沿って議事を進めます。次第1「横浜みどりアップ計画の進捗状況について」、事務局から報告をお願いいたします。 (事務局説明) (池邊座長) ありがとうございました。皆さまには事前に資料が配布されていますが、非常にボリュームがあるため、分かりにくい部分やご自分の所属部会以外の内容について理解しづらい部分があったかもしれません。本日はどのようなご意見でも結構ですので、部
--	---

	会の枠を超えて、ご質問・ご意見をお願いいたします。 私は、「横浜市のみどりの取組に関するアンケート調査」で満足度が50%を下回ったこと、そして、「やや不満」という回答が15%を超えたことが非常に気になっています。皆さまのお力をお借りして、来年度はこれらを改善し、良い形でGREEN×EXPO 2027を迎えたいと考えております。 それでは、どなたからでも結構です。ご質問、ご意見をお願いいたします。 (菊池委員) 丁寧なご説明をありがとうございました。 決められた枠組みの中での実績は素晴らしいものだと思います。 この話をするのは3回目になりますが、私は町内会の代表として参加していますので、まずお伺いします。市連会や区連会では、このような説明を聞いたことがないです。みどりアップ計画では自治会・町内会へのアプローチがないのですか。町内会は最大の福祉団体なのに、なぜ説明がないのでしょうか。私たちが受け取るのは、「こういうふうにできました」という結果だけです。しかし、市民が一番気にしているのは安全・安心・健康の3点です。それにどう貢献するのかという説明がなされているのかどうかについてお伺いしたいと思います。 また、地域コミュニティの項目も拝見しましたが、社会の動きに対してみどりの取組がどのような貢献をしたとお考えなのかについてもお聞きしたいです。 今、地域では不登校の子どもたちが非常に増えています。そして、定年延長や共働きの増加によって、昼間、勤労世代の大人は地域にいません。そうした中で、子どもたちをどう元気づけるのかについて、地域では必死に取り組んでいます。その視点においては、緑には大きな意味があります。 「このまちに何が欲しいですか」と尋ねると、多くの人は「緑が欲しい」と答えます。学校に対する取組に加え、一般市民へのアプローチも絶対に必要だと考えます。もし、既に取り組んでいる一般市民へのアプローチがあれば、教えてください。まだやっていないのであれば、次年度の課題になると思います。 そして、緑は熱中症対策としても必要ですが、市全体、特に住宅地における緑のつくり方について、どのように考えておられるのかを教えてください。 学校の総合学習については、5年生・6年生の例がありましたが、今は4年生から総合学習を行っています。地域の人もそこに参加するのですが、そこで感じたのは、地域を最も知らないのは学校の先生だということです。自宅と学校の往復をするだけで、地域の実情をご存じないようです。学校で緑の活動を行うことは教育としては良いのですが、実際に子どもたちが多くの時間を過ごすのは、学校よりも地域です。その点に関するヒアリングをぜひ行ってほしいと思います。また、もし既に取り組んでいるのであれば、現状を教えてください。以上です。 (池邊座長) これまでも菊池委員からは、地元の自治会などへのアナウンスや説明が足りないというご意見をいただいていたように思いますが、事務局、ご回答をお願いします。 (事務局) ご意見、ありがとうございます。4点ほどご指摘をいただいたと思います。 まず1点目の市連会・区連会への説明が不十分ではないかという点については、毎回、同じご指摘を頂戴しております。現状としては、市連会・区連会には年に1回、実績報告を行っています。
--	--

	これは市議会でも報告していますが、私たち職員が手分けして、各区の区連会へ伺い、リーフレット等を使って説明をしています。 菊池委員のご意見は、「結果の報告だけではなく、途中経過や個別の取組内容についても区連会で説明すべき」ということだと理解しています。今後、区連会の管轄部署とも相談し、機会を捉えつつ、できるだけきめ細かくご説明できるよう努めてまいります。
(菊池委員)	その点について少し補足します。 おっしゃるとおりなのですが、地域が本当に知りたいのは、みどりの取組の全体像ではなく、自分の住んでいる場所がどうなのかということです。そこに一番の関心があります。 例えば、子どもが熱中症になったら困りますが、街中に木が1、2本あるだけでも全然違ってきます。市民は、そういった「暮らしに直結する話」を聞きたいのです。「どこで何をした」という情報は、区レベルですでに聞いていますし、町内会でも把握しています。 しかし、それらが暮らしに直結していないのです。
(事務局)	ありがとうございます。ご説明の仕方に問題があるということですね。 私たちの報告は、「この場所でこういうことをしました」という部分に偏りがちであるため、市民の皆さんに身近に感じてもらえるような工夫は必要だと感じています。「このように伝えれば分かりやすい」といったアイデアがあれば、ご指南いただけますとありがたいです。 2点目は、地域における、「子どもたちをどう支えるか」という課題のためのツールとして緑が活用できるのではないかとのご指摘だと理解しました。みどりアップ計画の各事業を、地域の緑の取組でうまく使ってもらいたいという考えは私たちも持っていて、地域の緑の取組に対する助成メニューも複数、用意しています。しかし、その参加者は高齢の方が多くなりがちです。そこで、できるだけ多くの子どもたちに参加してもらえよう、今後は進め方を工夫していきたいと思います。
(菊池委員)	熱中症対策や、ウォーカブルの視点での取組はありますか。
(事務局)	ありがとうございます。 みどりアップ計画によってまとまりのある緑を保全したり、身近な緑をつくったりすることは、まさに地域の熱中症対策にもつながると考えています。また、市民の森などは、ウォーカブルな都市づくりにも寄与していると思います。みどりアップ計画全体として、そうした面にも貢献していると考えています。
(菊池委員)	でも、そんな大きなスペースは、うちの地域にはどこにもないようです。欲しいものは、「木が1、2本ある木陰」であり、そこまでいかないと、地域の人はいあまりうれしくないのです。 先ほども申し上げましたが、インフラ系の大きな話は分かっています。でも、地域の実感としてはそれがないということです。 それから、先ほど出た緑の助成の話ですが、地域の人たちはその応募方法が分からないのです。このことをお話するのも2回目か3回目です。現在は、誰がどうやって手を挙げているのですか。なぜ、最大の福祉団体であり、人数も多い町内会に知らせないのでしょうか。

	町内会長に伝えれば、「こんなものがあるけど応募しますか」と、必ず、地域で話が広がっていきます。そのチャンスをつぶしているのはもったいないと思います。
(事務局)	ありがとうございます。私たちの説明や取組にまだまだ至らない点があることを強く感じました。 また、私たちは全体像だけを語りがちですが、「木陰のための木を1、2本」という視点は、市民に緑を自分事として捉えてもらうためには大変重要であると気付かされました。今後の説明では、その視点を意識していきたいと思います。 そして4点目、「学校の先生は地域を知らない」というご指摘についてです。子どもという視点では、学校と連携して取り組むことはもちろん、地域も重要な要素です。子どもを中心に考える事業、学校で行う事業をそれぞれ、進めつつ、「学校での取組では地域を意識する」、「地域での取組では子どもを意識する」という両立が大切であることを、ご意見を伺いながら感じました。ご示唆いただいた視点をしっかり受け止め、今後の事業に生かしていきたいと思います。
(池邊座長)	ありがとうございます。 40度近い暑さが続く中では鋼材の遊具や滑り台は熱くなり、子どもたちも以前のように「外で遊びたい」、「公園に行きたい」とは思えなくなっています。親も、「暑いから行かないで」と言わざるを得ない状況です。そうした中では、市民緑地のような場所や公園のリニューアルの在り方が重要になってきます。 菊池委員がおっしゃったような「木が1、2本あるだけで生まれる木陰」や、そこに置かれた居心地の良いベンチ、あるいは、ミストなどを使った涼しさの演出といった小さな工夫が、これからは必要だと思います。「500万円3カ年」のような大きな事業もよいのですが、こうした小さな工夫によって、公園がこれからも市民に愛される場所であり続けることが大切だと感じています。 また、私は、「皆さんの周りの公園は美しいですか」とお聞きしたいのです。これまで、公園には「美しさ」ではなく、緑被率などの数値ばかりが重視されてきました。GREEN×EXPO 2027を控える今こそ、「横浜の公園は美しい。だから愛される」と言われるような場所にしていくことが必要だと思います。子どもたちだけでなく、大人も思わず立ち寄りたくなるような公園が増えるとうよいと思います。ありがとうございました。 他にご意見はありますか。北原委員、お願いします。
(北原委員)	ご説明、ありがとうございました。 私は主に広報の観点から意見を申し上げます。まず、この1年間、情報流通を非常に丁寧に構築し、実行していただいたと感じています。広報・見える化部会で提案したさまざまな事柄をしっかりと形にいただいた結果だと思います。 「人生記念樹」事業では、「パマトコ」や「すぐーる」を活用し、出生・入園・入学といった細分化されたデータに基づいて情報を届けていただきました。その結果、「パマトコは乳幼児期・幼児期に非常に効果的である」、「すぐーるは小学校入学時に効果が見られる」という傾向が確認できました。今後、例えば入学となると、「すぐーる」に入る前の層、すなわち、小学校入学前の最もニーズが高い層に、効果的に情報を届けるにはどうしたらよいかという点も検証していければよいのではないかと思います。 また、行政の情報伝達手段としての紙媒体の減少、Web媒体への移行の状況下で、情報が届く層・届かない層が変わってきてい

	ます。若者と高齢者という世代差による情報の伝わり方に加え、「情報の内容がどう伝わるか」という点についても、今後、検証が必要だと思います。 特にWeb媒体では、情報の断片化と内容の先鋭化が進みます。例えば、「人生記念樹がもらえます」という情報だけが切り取られ、その先にある「みどりアップ計画の理念」や「緑がもたらす市民の便益」、「税金の使われ方」などが伝わらない可能性があります。つまり、「木をあげます。以上」となってしまう危険性があるということです。 だからこそ、個々の情報の編集精度を高め、理念がきちんと伝わるようにする必要があります。Webの活用による認知度の拡大だけでなく、理念浸透や満足度向上のための「情報の作り方」を、今後、さらに検証してもらいたいと思います。 3点目は、ブランディングの強化です。みどりは命・暮らし・福祉に直結する非常に重要なキーワードです。横浜のような大都市で、みどりアップ計画という制度があり、まちぐるみで緑を保全している価値をさらに感覚的に広げていくためには、緑のデザインコードのような、ブランディングの強化が必要だと思います。文字・色・実態がそろった「みどり」という強いキーワードがあるのですから、長期的な視点で、みどりのブランドをより強く打ち出してほしいと思います。以上です。
(池邊座長)	ありがとうございました。 それでは、今の3点について事務局から回答をお願いします。
(事務局)	ありがとうございました。 1点目の情報流通については、広報・見える化部会でご意見・ご提案をいただきました。われわれとしては、それを参考にして、工夫しながら、これまで取り組んできたところです。 私自身、市民推進会議で「情報流通」という言葉自体を初めて知りましたが、そのご意見によって、われわれの取組が一步進んだのではないかという実感を持っています。 2点目の「理念浸透」についても、新しい気付きを得ることができたと考えます。われわれが目指すもの、やろうとしていることを、広報を通じてどう伝えていくかについては、日々悩んでいるところです。そのため、理念浸透あるいは満足度の向上のためには何をすればよいか、また、どのような表現を用いればよいかについては、広報・見える化部会でまたご意見やアイデアをいただきながら進めていきたいと思っています。 そして、3点目として、都市のブランディング、あるいは、緑のブランディング、デザインコードに関するご意見を頂戴しました。みどりアップ計画の表紙の裏面をご覧ください。私がこのご意見を伺ってすぐに思ったのが、「こういうことも一つのブランディングにつながっていくのではないか」ということでした。この点についても、効果的な進め方などについて、広報・見える化部会からご意見やアイデアを伺っていこうと思います。今後ともご教示をよろしくお願いします。ありがとうございました。
(池邊座長)	ありがとうございます。 先ほどの満足度の話と関係しますが、「こうやりました」、「助成しました」、「何カ所整備をしました」という結果だけではなく、「こういうことができます」、「この制度はこういう使い方ができます」という形で市民に投げ掛けていくことが大切だと、私も思います。900円という額ではありますが、市民の皆さんにみどり税を負担していただいている以上、「それがどう使えるの

	か」、「自分が使わないとしても、子育て世代や高齢者にどう役立つのか」、「どんな未来につながるのか」といった点をしっかり伝えることが重要だと思います。その辺りをぜひ、よろしくお願いいたします。 それでは、金井委員、お願いします。
(金井委員)	おはようございます。2点、質問があります。 まず1点目は認知度についてです。私は認知度アップをどう図るかが大きなテーマだと思っていますが、先ほどの調査データを見ると、急に認知度が上がったように見えて、少し違和感がありました。私は、特に若い世代の認知度が低いと考えていたのですが、その辺りがどうなっているのか、もう少し詳しく教えてください。 それに関連して、インターネット経由で調査に回答した方について質問します。例えば、小学校における取組についての情報入手や、大学生に対しては森の楽校へのアクセスといった情報入手が簡単にできる仕組みになっているのかも、併せて伺いたいと思います。 2点目は、GREEN×EXPO 2027の活用についてです。失礼な言い方かもしれませんが、どうしても役所には縦割り意識が強く、横の連携が弱いという印象があります。「みどりアップ計画の取組の延長線上にGREEN×EXPO 2027がある」と、私は単純に考えてしまっているのですが、区役所に行くと、GREEN×EXPO 2027の派手な宣伝はあっても、みどりアップ計画の話はどこにもないのです。もっと連動させないと、認知度が上がらないのではないかと思います。その点についてのお考えを伺います。 また、柱を三つから四つに増やしてほしいとは言いませんが、認知度については常に検証し続けないと、市民委員として関わっていても、4年後に「やっぱり認知度は上がらなかったね」という結論になってしまうのではないかと危惧しています。その点についてもコメントをいただければ幸いです。
(池邊座長)	ありがとうございます。今回、回答人数が増え、認知度も上がった一方で、その先の「何ができるのか」が見えていないために、満足度が低いのではないかと感じています。 それでは、事務局、回答をお願いします。
(事務局)	ありがとうございました。 1点目の世代ごとの認知度については、基本的な傾向として若い世代の認知度が低く、高齢者のほうが高いという状況がここ数年、続いています。昨年度は、特にみどり税の認知度が大きく上がりましたが、その理由については今後、しっかり分析していきたいと考えています。 2点目のGREEN×EXPO 2027とみどりアップ計画の連動に関して、私どもとしては、みどりアップ計画を盛り上げることによってGREEN×EXPO 2027につなげていくという意識を持って事業を進めています。しかし、全国的・世界的なイベントという性質上、両者のつながりを広報面で十分に示しきれていないのが現状だと感じています。 きょうはちょうど開催1年前です。「みどりアップ計画のこれまでの成果がGREEN×EXPO 2027の開催にもつながった」と言われることも多くありますので、これを良い機会と捉えてPRを強化していきたいと考えています。
(池邊座長)	ありがとうございました。大阪万博では費用増大が全国的に批

	判されましたが、最終的には入場者が非常に多く、結果として一定の満足感が得られた形で終わりました。GREEN×EXPO 2027についても、すでに費用面の指摘が出ています。みどり税はEXPOの費用には使われていないこと、そして、EXPOでは業界や各国の展示を見るだけでなく、市民がどのように関われるかという点がまだ見えないことが課題だと思います。 世界の来場者への「おもてなし」や、みどりアップ計画の英語版パンフレットを作って「横浜市はこうした取組を続けてきたから園芸博を開催するのだ」とアピールすることもある必要ではないかと、事務局にもお話ししています。 市民が「ただ見に行くだけ」ではなく、どう参加できるのかについては、私たちが考えるのか、あるいは、EXPO側が考えるのかは難しいところです。しかし、その点が市民から乖離すると「多額の費用をかけたのに成果が見えない」という結果になりかねず、それが一番怖いと感じています。 他にご意見はありますか。大竹委員。
(大竹委員)	発表をありがとうございました。 先ほど池邊座長からもご指摘がありましたが、私は、この「横浜市の緑の取組に関するアンケート調査」で、満足度が50%を切っていること、そして、「やや不満」、「不満」という回答が増えていることが非常に気になります。これから世代別の傾向などを検証されると思いますが、アンケート結果から、市民の方は「森での散策・ウォーキング」や「農や食に関するイベント」には興味を持っているということが分かりました。 横浜市は非常に人口の多い大都市です。みどり税によって市民の森が整備されたり、市民農園が増えたりしていることは知っていても、全ての市民が自分事として関われるだけの体験・機会が圧倒的に不足しているのではないかと思います。 だからこそ、今ある仕組みだけではなく、もっと草の根的に広げていくような、全く異なる仕組みや方法を考える余地があるのではないかと感じています。 そこで、このアンケート結果に対して市ではどのように捉えておられるのかをお伺いしたいと思います。
(池邊座長)	それでは、今の質問に事務局から回答をお願いいたします。
(事務局)	アンケート結果は今後、Webで公開予定ですが、今回のアンケートでは新たに、「今後行ってみたいと感じているもの」と最も行ってみたいものについて尋ね、「今はなぜ、行っていないのか」という設問を追加しました。これによって、各取組に対する理由が明らかになります。その結果を基に柱ごとに検証し、今後、どのような対策を取り得るかという改善に生かしていきたいと考えております。 また、満足度が下がった点については、自由記述の意見をよく検証し、各事業にフィードバックして対応していきたいと考えております。以上です。
(池邊座長)	ありがとうございました。 大竹委員、今の回答でよろしいですか。
(大竹委員)	曖昧で、非常に優等生の回答だなと思って聞いていました。まさにおっしゃるとおりだと思いますが、では、具体的にどうしていくのかを私たちは知りたいのです。 先ほど、菊池委員からは不登校に関する問題が出ました。現在、

	不登校児童・生徒数が増大していることは大きな問題です。それに対処するには学校だけでは限界があると、私も思います。子どもたちにとって、緑は非常に良い学びの機会であるため、学校だけではなく、地域にも広げていけば、保健室登校をしている、また、フリースクールに通う子どもたちにも関わるすることができます。 従って、地域へのヒアリングをもっと細やかに行わないと、この満足度はなかなか上がらないのではないかと感じています。また、みどりアップ計画は「自分の暮らしに直結している」ものだという実感を市民に持ってもらう必要性も感じます。市民推進会議委員である私たちは、みどりアップ計画の制度をよく知っているから、「自分の暮らしに直結している」ことが理解できますが、一般市民の方には伝わりにくいと思います。 今後は、もっと草の根的なアクションや今までと異なる視点から、認知を効率的に広げていく方法を検討していただけるとありがたいです。以上です。
(池邊座長)	ありがとうございます。 先ほどの情報流通の話とも関連しますが、子どもたちが学校で緑に関する取組をしていることは知っていても、それに「みどり税が使われている」ことはご存じない親御さんが非常に多いと思います。そうした方々は、アンケート調査ではもしかすると、「やや不満」と回答しているかもしれません。 みどり税で行っている事業と、そうでない事業とを明確に区分することは難しいため、「これにはみどり税が使われています」と大々的に宣伝することは難しいのですが、「これは横浜独自の取組であり、プラスアルファの価値を生んでいる」ということを市民に伝わるようにしていく必要があると感じています。北原委員がおっしゃったようなブランディング、そして、市民の誇りとなるような形にしていくことが大切だと思います。よろしく願いいたします。 飛田委員、お願いします。
(飛田委員)	今のブランディングと市民目線の話に関連して、先日、菊名にあるNPO法人「海の森・山の森事務局」の代表の方から伺った話を共有します。 この団体は、神奈川県海岸沿いでごみ拾いをしていて、NHKでも何度か取り上げられています。その中で「特に汚れている場所はどこか」を調べたところ、「横浜市の海岸」だったそうです。「横浜市の海岸」と聞くと金沢八景あたりを想像しますが、彼らの定義によると、それは「横浜市の海に沿った場所全て」というものでした。 その中でも特に産業道路沿いのごみは大量で、その理由を調べたところ、本牧などの産業道路に巨大トレーラーが長時間停車するためでした。そこにトイレがないため、運転手さんはペットボトルに用を足し、そのペットボトルや食べ終えた弁当等の容器を道路沿いや海に投棄するといった状況が起きているとのことでした。 横浜市は緑被率を上げるために、産業道路沿いには緑を植えているものの、トイレ、ごみ箱、休憩所などのファシリティがないため、道路周辺がごみ捨て場になってしまっているのです。その悪臭立ち込めるごみを、NPOの方々は集め、重さまで測っています。 そのNPOの代表が横浜市に対して、「緑の取組をやっているなら、ごみについても何とかしてほしい」と相談に行ったところ、

	「それは資源循環局・港湾局の仕事で、みどりアップ計画とは関係ない」と言われたそうです。しかし、市民の生活目線からすると、「緑の中にあるごみなのに、その担当がみどり環境局ではなく、港湾局なのはなぜなのだろう」と混乱してしまいます。 従って、市として責任の所在をきちんと整理して、市民により分かりやすく伝えてほしいと思います。例えば、「緑を植えたのはどの部署か」、「その後の管理はどこが担当しているのか」、「みどり税はどこまで関係しているのか」といった点で混乱が生じないよう、責任の所在を明確にしないと市民としては納得できません。 東京都では、横浜市とは逆の方針を取っているようです。湾岸地域については緑被率を無視してコンクリートで固め、コンビニを適宜、配置することによって、トレーラー運転手が車を止めて食事をし、用を足すことのできる場所を確保し、弁当やペットボトル等のごみはコンビニが処理するという形で、横浜市のようなごみ問題が生じないようにしています。ただし、そこには緑がほとんどなく、夏場は灼熱となり、運転手はトレーラー内で冷房を強くして休むしかありません。 つまり、どちらを選ぶかという話です。横浜市は「緑」を選んだのだから、その結果生じる課題にも責任を持って対応できるよう、市の担当部署を整理し、市民に説明してほしいと思います。「みどり税とは関係ない」と逃げるのではなく、市民が納得できる説明をしていただきたいと思います。今はもう、緑被率を上げればよいという時代ではありません。以上です。
(池邊座長)	ありがとうございます。 水辺はオープンスペースであり、本来は川や海も含まれますが、みどりアップ計画ではこれまで、対象を「緑のある場所」に限定し、今のお話にあった港湾や河川については、現状では管轄外という扱いになっています。 それでは、事務局からご回答をお願いいたします。
(事務局)	私は実は、昨年8月まで磯子土木事務所の所長でしたので、今のお話に出た産業道路や国道357号沿いのごみの状況についてはよく承知しています。私自身もスポーツごみ拾いに参加し、重さを測ったりしたこともあります。 この問題については、基本的に運転手さんのマナーの問題が大きいのので、運転手さんへの啓発が必要だと考えています。磯子の例で申し上げますと、国道357号の旧道、杉田臨海緑地付近の道路は国の管理で、横浜市が直接関与できない部分もありますが、そこに路上駐車防止のため、横浜市も協力してみどり税を活用した花壇を約10年間、設置していました。道路構造管理の関係で昨年、花壇は撤去しましたが、このような取組によって、街の美化やごみ問題、運転手のマナー改善と併せて、空きスペースに緑を活用するというアプローチは可能だと思います。 みどり環境局に直接、こうした相談が来ることは少ないかもしれませんが、ごみのマナーの問題ならば、警察や資源循環局へ連絡があると思われます。その辺りは、部署間の情報ネットワークを活用し、対応できる部分があれば連携して取り組んでいきたいと考えています。
(池邊座長)	ありがとうございます。やはり「阻害要因」への対応はとても重要だと思います。現在の取組は、どちらかというと「良いことを広げる」施策が中心ですが、横浜市内には、緑の中で汚れている場所や、管理が行き届かない場所も確かにあります。それらに

	対しては、みどり税を使ったみどりアップ計画の事業ではなく、別の事業で対応している部分も多いと思われます。しかし、市民からはその違いが見えにくいのだと思います。特に、市民が日常的に目にする場所に「不快に感じる緑」、「危険に感じる緑」がある場合、そこへの対応は今後、ますます必要になると感じています。ありがとうございます。 他にはいかがですか。河原委員。
(河原委員)	いろいろなご説明をありがとうございます。 スライドの27ページに書いてあるのですが、市民推進会議委員になって1年半ほどたつ中で、「横浜環境教育出前講座」というものがあることを、実は先ほど、初めて知りました。小学校への出前授業をもっと増やしたほうがいいと、ここでも何度か申し上げてきました。しかし、小学校や中学校だけでなく、先ほど菊池委員がおっしゃったように、地域に出向いて住民にお話しするほうが、より啓発につながるのではないかと感じています。 この「横浜環境教育出前講座」については、まだ詳しく調べていないので分からないのですが、登録すれば私も講座を担当できるような仕組みなのかが気になりました。私は横浜市のいろいろな制度を知っているつもりでしたが、この講座については全く知りませんでした。そこで、もっとホームページや情報発信を分かりやすくできれば、活用できる人も増えるのではないかと思います。 私は今度、地元のヘルスメイトの会長を務める予定ですが、それに関連して「横浜環境教育出前講座」を開く機会を設ければ、環境に興味のある市民30～40人が一度に学べます。そして、その受講者からさらに認知が広がっていくことになります。また、菊池委員がおっしゃったように、地元の商店街の方々が聞けば、さらに広く伝わるはずです。 「横浜環境教育出前講座」について、このような活用を今後、検討されていますか。また、この講座は子ども向けだけなのか、大人向けにも展開できるのか、そして、この講座をもっと広報につなげることはできないのかという点について質問したいと思います。
(池邊座長)	それでは、事務局からご回答をお願いします。
(事務局)	ありがとうございました。 今ご案内いただいた「横浜環境教育出前講座」は学校向けの出前講座であり、各局から「こういう授業ができます」という一覧を提供し、学校側から「ぜひ来てほしい」というリクエストがあった場合に実施する仕組みになっています。右上の写真は、市役所に今年入った職員が学校に出向いて授業を行っている様子です。 私どもだけで講座を実施するには限界がありますので、場合によっては、みどりアップ計画を理解している市民の方に講師として関わってもらうことによって、みどりアップ計画に対する市民の認知と理解を大きく広げることができるのではないかと、ご意見を伺いながら、今、感じたところです。ありがとうございます。
(事務局)	補足させていただきますと、「横浜市環境教育出前講座」は、みどり環境局環境活動事業課で実施しているもので、学校だけでなく、5名以上の地域の皆さまもお申し込みが可能です。Webページでも紹介しており、新たに講座を追加した際には、Xなどを

	使ってお知らせしています。今後はさらに、「こういう講座があります」ということを広くお伝えしていきたいと思います。
(池邊座長)	ありがとうございます。 「環境教育出前講座」の名称について、「教育」という言葉が付くと、どうしても学校限定のように受け取られ、参加者募集をしても応募が少なくなる可能性があります。その辺りは、今後、ご検討をお願いします。 他にご意見はありますか。樋上委員。
(樋上委員)	全般的に非常によくまとめられており、進捗状況については評価しております。 ただし、周知に関する取組については、これまでの議論にもあったアンケート調査に対して、私も強い関心があります。確かに、全体数が増え、回収率も上がっています。その内訳としては、インターネット回答が増加しているという実態があります。そして、認知度・満足度といった数値が出ているわけです。 しかし、正直に申し上げますと、「みどり税とみどりアップ計画の認知度は上がったが、満足度が下がった」という結果だけでは、それ以上の評価や議論ができないと、私は感じています。なぜなら、インターネット回答が増えたことによる年齢層別の変化、それによる認知度や満足度への影響など、層別の分析が示されない限り、具体的な議論ができないと考えるからです。 この点についてはどのように考えておられるのか、ご意見を伺いたいと思います。
(池邊座長)	事務局からご回答をお願いします。
(事務局)	ありがとうございます。 アンケート調査の概要として、本日は主な項目のみをご説明しましたが、アンケートでは居住区や年齢も伺っていますので、クロス集計による分析も行い、今後の事業取組に生かしていきたいと考えています。本日は概要のみの説明となり、申し訳ありません。
(樋上委員)	ありがとうございます。 本日は概要のみの説明ということですが、調査結果をより深く理解するためには、みどりアップ計画の認知度、みどり税の認知度、満足度が、どのような設問・方法で取得されたのかも含めて、結果を公表してほしいと思います。よろしくお願いします。以上です。
(池邊座長)	ありがとうございました。 次第2もありますので、次第1について、まだご意見があればお願いします。 酒井委員、続いて竹内委員の順にお願いします。
(酒井委員)	本日はお話をありがとうございました。若者の立場から二つほど、お話ししたいと思います。 一つ目は、1年後に開催されるGREEN×EXPO 2027についてです。若者の視点では、GREEN×EXPO 2027は華やかなイベントであり、さまざまな人が関心を持つ博覧会になると思います。しかし、大阪万博を見たときに、半年間の開催後に国際交流がどれだけ残ったかという、かなり限定的だったのではないかと感じています。学生から見て、横浜に多くの関心が集まる機会として、GREEN

	×EXPO 2027は前例のないレベルだと思いますが、その関心がイベント終了後に残らないのではないかと懸念があります。GREEN×EXPO 2027の部署も、期間が終わればなくなるのだとすれば、その後のレガシーを担うのは、みどり環境局になるのではないかと思います。 そこで、一度関心を持ってくれた人たちが、その後どうやって緑に関わり続けるのかといった点が重要だと思います。現状では、緑の維持管理活動や学習など、比較的深い活動が中心ですが、「維持管理まではいかないけれど、少し体験してみたい」という層に向けた、裾野を広げる事業が増えると、継続的に関わる若者も増えるのではないかと思います。 もう一つは、地域緑のまちづくりや市民の森についてです。大学生がサークルを作って緑の保全活動をしようとすると、最大の課題は「活動場所がない」ことです。緑を植える場所がないため、構想はあっても活動を始められないケースが多くあります。 そこで、横浜市の所有する土地や施設と、活動したい学生とをつなぐ仕組みがあれば、若者を緑づくりの現場に引き込むことができます。緑の取組は数多くあると思いますが、場所を作るだけでなく、活用したい人とつなぐ取組も増やしていただけるといいのではないかと感じました。以上です。
(池邊座長)	ありがとうございました。
(事務局)	ありがとうございました。 1点目の、GREEN×EXPO 2027の後に何を残していくかという点ですが、きょうはみどりアップ計画の説明が中心で、EXPOの取組をご紹介できませんでした。GREEN×EXPO 2027では、横浜市として出展するエリアがあり、その中に約1ヘクタールの「横浜市民活動フィールド」というスペースを設ける予定です。そのスペースは、公園愛護会やみどりアップの活動に携わっている方々の実践の場として活用することを想定しています。 お配りしたGREEN×EXPO 2027リーフレットの右下に「政府出展」というエリアがありますが、その右側が、横浜市の出展エリアになります。 このスペースを設けた目的は大きく二つあります。一つは地域活動のレベルアップのためです。環境活動団体の皆さまにこのスペースを利用して環境や生物多様性の視点を取り入れた取組を実践してもらい、万博終了後にはその取組を地域へ持ち帰り、地域活動をレベルアップしてもらいたいと考えています。 もう一つは、愛護会活動などのさまざまな取組、活動の認知度アップです。緑に関する活動は高齢化が進み、裾野が広がりにくいという課題があります。そこで、このフィールドでさまざまなプログラムを展開し、来場者に参加してもらうことによって、「こんな活動があるんだ」と知っていただく機会にしたいと考えています。 今後、詳細を詰め、参加者募集等をホームページで行いますので、ぜひ、ご注目ください。
(事務局)	2点目について回答します。大学生を含む学生の活動として、森づくりでは大学生向けの「森づくり塾」を開催していますが、先ほどのお話にもあったように、高校生や大学生に対する直接のアプローチがまだ不足していると感じています。「横浜市民活動フィールド」での活動を地域に持ちかえっていただくように、講座で横浜の森づくりやみどりアップ計画について学んだ上で実際の活動につなげる取組は既に存在し、地道に続けているのです。

	が、なかなか多くの方に届いていないようです。 大学全体に協力を求めるという点では、敷地内に森のある大学には、大学で講座を開講し、その講師も大学生に担ってもらおうといった活動を行い、そこから森づくりの現場へとつなげるような取組もしていますが、まだ不足していると、お話を聴いていて感じました。 それから、先ほどの地域緑のまちづくりについて、少し補足させてください。地域緑のまちづくりでは、小学校・中学校のPTAに加え、地域の協議会を中心としたグループが応募してくださるような事例が生まれています。 また、横浜市内を見渡すと、小学校・中学校、大学などが点在していますが、例えば調査部会でご覧いただいた関ヶ谷市民の森は、関東学院大学と連携した活動の事例があります。 さらに、地域緑のまちづくりでは、3年間の活動を終えた団体が、活動を通じて感じたことをまとめた冊子も作っています。 これらを踏まえて、みどりアップ計画の成果を報告する際には、「これをした」、「あれをした」という報告だけではなく、「こういったメンバーで取り組んだら、こういう成果があった。皆さんもこういうふうに関わることができます」という形で、市民のニーズを踏まえて事業の位置付けや取組をアピールしていくことが重要だと考えます。こうしたやり取りを通じて裾野を広げていきたいと考えています。以上です。
(池邊座長)	ありがとうございます。 いろいろな取組があるのに、十分に情報が流通していないように思います。大学生の事例なども、もっと積極的に紹介してください。 次に竹内委員、お願いします。
(竹内委員)	私からは簡単に三つ、コメントしたいと思いますが、その前に一言申し上げます。 委員の皆さんは厳しい意見を述べていますが、横浜市は非常に優れた取組をされていると、私は思います。皆さんの期待が高く、「言えば応えてくれる」という信頼感があるからこそ、さまざまな意見が出るのだと思います。市職員の皆さんにはもっと自信を持ってもらいたいですし、これまでの素晴らしい取組について記録に残したいと思います。そして、レベルが高いからこそ、市民の意識が高くなり、満足度が少し下がっているのではないかと感じています。 1点目ですが、樹木の健全な育成についてです。最近、砧公園で倒木があったように、都市樹木の不健全化は国の大きな課題になっています。私は国土交通省のガイドライン策定の委員でもあります。全国的に「危なそうな木はすぐ切る」という方向に向かいがちです。しかし、都市樹木には木陰の憩いの場など、非常に重要な役割があります。横浜市は全国のフロントランナーとして、「健全な樹木の育成が大事である」ということを、積極的に発信してほしいと思います。 2点目は、健全な樹木を育てるための維持管理の重要性についてです。緑はつくって終わりではなく、育て、管理することが必要です。今回の報告にはなかったようですが、横浜市でも樹木の診断や維持管理を適宜、行っていると思います。そのための費用や人材育成も非常に大切です。そこに取り組んでいることも積極的に発信・PRしてもらいたいと思います。そして、道路局等、他部署も巻き込みながら、整備費から管理費をより重視するようシフトしていく流れを作してほしいと思います。

	3点目は、みどりアップ計画として樹木の健全な育成をどう進めていくかということです。「閲覧資料1」の12ページにある「維持管理助成」は、私有地で大きな樹木を抱えている方にとって非常に重要な施策です。倒木の不安や近隣への迷惑などの悩みを抱える方が多い中で、目標150件に対して143件の予定となっています。この結果については、さらに積極的に広報し、より活用しやすくする必要があるのではないかと思います。 また、地域でボランティア活動をしていると、専門家のアドバイスが欲しいという声をよく聞きます。そのため、22ページ、26ページにある「アドバイザー派遣」は、農地と緑地の両方に対応していて非常に良い制度だと思います。こうした制度も、市民や民間の方が利用しやすいように、もっと広報に力を入れてもらいたいと思います。以上です。
(池邊座長)	ありがとうございました。 事務局から回答をお願いします。
(事務局)	ありがとうございました。現在、みどりアップ計画は第4期目となる5カ年計画を進めています。初期の頃は樹林地の買い取り費用が事業費の大きな割合を占め、それは現在でも変わらないのですが、少しずつ維持管理費へとシフトしつつあります。市民の皆さまにその流れが十分に伝わっていないこと、また、庁内においてもその方向性を明示できていない部分があるのではないかと、ご意見をお聴きして感じました。今後はより一層、他部署と連携し、費用面に加え、人材面に関する意識もしっかり持って取り組んでいきたいと思っています。
(池邊座長)	ありがとうございます。 それでは、野路委員、お願いします。
(野路委員)	まず、樹林地については、今後、ますます増えていくのではないかと感じています。なぜなら、私も最近、樹林地に対する買い取りの打診をこまめに受けていることもありますが、隣に樹林地があることが望ましいと考える市民は多いからです。 次に、「コーディネーター派遣」についてです。私どもの畑や田んぼでは小学生・中学生・大学生が活動していますが、昨年11月頃、教育委員会から、「農体験をさせてもらえないか」という依頼がありました。そこで、一反の畑を貸している新規就農者の方に相談しました。その方は横浜ならではの農業をされていて、カラフルな人参や大根など、子どもたちの目を引くような作物を育てています。その畑で白菜を収穫したり、キウイフルーツを採ったりして、子どもたちには大変喜ばれました。 その際、同行したコーディネーターさんは農業を全く知らない方でした。私たちもいろいろと説明したり、新規就農者の方には農業の面白さを話してもらったりしましたが、やはり農業を知らない方がコーディネーターを務めるのは無理があるように感じました。コーディネーターの役割は、学校から畑までの往復時間、畑での作業時間の管理といった時程管理が中心ということでしたが、時程管理は私たちでもできますから、その点を再考してほしいと考えます。今回は、先生が頻繁に来て、連絡を密に取ってくださったからうまくいったようなものです。 そして、きょう、一番お願いしたいのはGREEN×EXPO 2027です。昨年、プロジェクターを使ってその内容をご説明いただいたりもしましたが、横浜市内でPRできる場に積極的に出向いて説明したほうがよいと思います。

	先日、四谷の砂防会館で全国女性農業委員大会があり、農林水産省の来賓の方が、「GREEN×EXPO 2027は国のプロジェクトですから、皆さんぜひいらしてください」とおっしゃっていました。それにならって、横浜市内で会合があるたびに出向いて説明するくらいの勢いで、この1年、積極的にPRしないと間に合わないのではないかと危惧しています。以上です。
(池邊座長)	ありがとうございます。それでは、今の野路委員のご意見に対して、事務局から簡潔に回答をお願いいたします。
(事務局)	ありがとうございます。 今、野路委員からお話がありましたが、ニーズの多様化もあり、農政部ではコーディネーター派遣で、農家の皆さまに地域の学校の学びの場としてのご協力をお願いしています。 こうした取組は、区役所を含む行政だけでなく、地域の農家、JA、市民団体など、多くの方々に関わってもらいながら進めています。 コーディネーターについて、「もう少し」というご意見でしたが、手を挙げてくださった方にコーディネーターをお願いしているという事情もあります。そのため、事実関係をしっかり確認した上で、今後に生かしていきたいと思います。
(池邊座長)	ありがとうございます。
(小金井委員)	委員になってからさまざまな場所を視察させていただきましたが、三つの柱の取組は、もともとコミュニティがある地域で多く行われ、みどり税を使った施策によって、そのコミュニティがより活性化したり、体験の場が広がったり、学校教育にもつながったりしていると感じています。 従って、「何をやりました」、「こういう成果がありました」という報告も大事ですが、その取組によって地域が実際にどのように活性化したのか、地域へどんな寄与があったのかといった波及効果について示すことにより、事業への評価がさらに高まるのではないかと思います。 私も桜並木のプロムナードを訪れた際に、桜がきれいだと感じると同時に、木が枯れないようにする大変さも実感しましたが、そこに桜並木を管理する地域のコミュニティが生まれ、それは商店街の活性化にもつながります。みどりアップ計画の取組が、より大きな価値につながっているということをみせていくのも、一つの方法だと思います。 また、農業についても、このみどりアップ計画の取組がなければ子どもたちに農体験を提供することもできませんし、協力してくださる農家の方々を募ることも難しいと思います。みどりアップ計画の取組は地域に根差しているからこそ、地域の方々も協力してくださるのだと思います。こうした取組をもっとPRすることによって、市民の理解もさらに深まるのではないかと感じましたので、一言申し上げました。
(池邊座長)	ありがとうございます。 この報告書は緑の基本計画の報告書ではないため、面積や場所数といった量的な成果だけではなく、どのような変化が生まれたかといった質的な成果にも焦点を当て、市民の皆さんに伝わる工夫をしていきたいと思います。よろしくをお願いいたします。 次に、池島委員、お願いいたします。

	(池島委員) 特段、追加の意見はないのですが、きょうの議論の中では、市民へのアピールという点について、委員の皆さんから非常に強い要望があったと感じました。この点は、今後も市民推進会議の中で継続して取り上げていくべきだと思います。 (池邊座長) ありがとうございます。 それでは、次第2に移ります。次第2は「市民推進会議2025年度報告書骨子案について」です。事務局から説明をお願いいたします。 (事務局説明) (池邊座長) それでは、事務局からご説明のあった「市民推進会議報告書骨子案」について、ご意見はありますか。 内海副座長、お願いします。 (内海副座長) きょう、皆さんのお話を伺っていて感じたのは、結局、関わりがなければ評価にはつながらないため、関わってもらう人を増やしていかなければならないということです。 みどりアップ計画の三本柱はいずれも、単にハードを整備するだけではなく、「農を感じる」、「実感できる緑・花」、「森を育む」という、関わりを前提としたものです。そういう意味では、今後はもっと多様な関わり方ができる施策を強化していく必要があると、あらためて感じました。 それは広報だけの問題ではなく、例えば、地域緑のまちづくり事業でコーディネーターを派遣しているように、事業展開の中で関わりが生まれる仕組みを増やしていくことが重要だと思います。 また、この会議でも繰り返し議論になっているように、目の前の緑がみどりアップ計画で確保されたものなのかどうかは市民には分かりません。どこまでがみどりアップ計画の対象で、どこからは対象外なのかが市民に理解されていないことは、市民が緑との関わりがないことの表れでもあります。 酒井委員のような若い方、あるいは、女性の市民などを巻き込むための新しい関わりのプログラムにはどんなものが考えられるのかといったことを議論し、具体的な形にしていくことが非常に大事だと思います。文字としては書かれていますが、それを具体化し、きめ細かく展開していく道筋をいよいよ作る必要があるのではないかと強く感じました。 (池邊座長) 私たちが今年から取り組むべき課題について、非常に深いご意見を頂戴したと思います。 以前私は「緑をつくる」部会に所属していたのですが、「森を育む」、「農を感じる」という言葉が出てくると、「緑をつくる」は緑被率を上げるだけなのか、というやや寂しい印象を受けていました。 GREEN×EXPO 2027はもちろん、きょうから始まる「横浜ガーデンネックレス2026」も、都市緑化フェアをきっかけに全国的に知られるようになり、年々訪れる方が増え、横浜市としては続けざるを得ない状況になっているように思います。 そして、私が素晴らしいと感じるのは、里山のイメージを変えたことです。私たちにとって里山とは、「入ってはいけない・手を付けてはいけない場所」という印象がありました。しかし、里山がこれだけ美しいガーデンになり得ることは、横浜市民にとって非常に新鮮な驚きであり、素晴らしい体験にもなっていると思
--	---

	います。 みどりアップ計画としても、通常業務とは異なる形で、レガシーに関する話をしてほしいと思います。それに加え、緑が好きな人だけでなく、これまで緑に関わりがなかった人、花は好きだけど緑には関心がないという人、虫が苦手な人などに緑に興味を持つきっかけを提供できればいいと感じています。 例えば、「4年間で消費したCO2分の苗木を植えて卒業する」、「新生がエディブルガーデンで作物を育て、寮で食べる」など、海外の大学で行われているキャンパス緑化の取組を参考にしてもよいのではないかと思います。 少しまとめのような話になりましたが、骨子案について何かある方はいらっしゃいますか。
(飛田委員)	情報提供になりますが、千葉県富里市で非常に好評だった施策があります。残念ながら財源がなくなり、今年ではできなくなったのですが、竹林整備に関する取組です。竹を10本切って炭にすると、市から3000円を支給するという仕組みでした。その3000円は、竹を切って炭にした行為をJクレジットに対応させることで捻出していました。炭そのものは市内の農家に、「肥料として使ってください」と渡していました。そして、Jクレジットとして計算する仕組みについては、環境省とも調整して進めようとしていたようです。 最初は森林環境譲与税を使って立ち上げたそうですが、整備をする人たちからは、「ネイチャーポジティブに貢献できるし、自分の竹林も整備できて素晴らしい」と、非常に好評だったとのこと。 富里市では財源が続かずに中止となりましたが、横浜市のように財源のある自治体であれば、Jクレジット対応、ネイチャーポジティブ、脱炭素といった観点で、みどり税の活用を広げることもできるのではないかと感じました。以上です。
(池邊座長)	ありがとうございました。
(事務局)	ご意見ありがとうございます。 みどりアップ計画とは直接の関係はありませんが、今年から農家の皆さんと連携し、農地から出る農業残渣をバイオ炭にして脱炭素につなげる取組を事業として企画しています。Jクレジットの検討まではできていないため、富里市の取組について詳細に調べてみたいと思います。ありがとうございます。
(池邊座長)	ありがとうございました。 それでは、この報告書については後日、各部会からコメントをいただくことになります。そのスケジュール等については、あらためて事務局からご案内があると思います。 それでは、この骨子案についてはよろしいですか。ありがとうございます。 次に、事務局からの連絡をお願いします。
(事務局)	それでは「その他」として、事務局から4点ほどご報告がありますが。私から3点まとめてお話いたします。 1点目は、広報・見える化部会の活動実績についてです。広報・見える化部会では、主に子育て世代・若者世代にみどりアップ計画を知ってもらうことを目的に、昨年8月からソーシャルメディアの「note」を活用した情報発信を行い、市民委員の皆さまに記事を執筆していただきました。既に「note」をご覧いただいた方

	も多いと思いますが、ぜひ、周囲の方にもお伝えください。 また、本日配付したポストカードも広報・見える化部会で議論を重ねて作成した、「はじめての横浜みどりアップ」というポストカードで、子育て世代にみどりアップ計画を知ってもらうことを目的にしています。表面は子どもが塗り絵を楽しめるデザインにし、裏面には、計画本体、みどりアップイベントカレンダー、先ほど紹介した「note」へアクセスできるQRコードを掲載しています。また、薄い線の所で切り取ると、しおりとしても使える仕様になっています。今後、みどりアップ計画に関するイベントや場所で配布を予定しています。本日お配りした数で足りない場合は、追加でご用意いたしますので、事務局にお知らせください。以上が1点目の広報・見える化部会の活動紹介です。 続いて2点目、今後のスケジュールについてです。資料をご覧ください。きょうは3月の「第45回の本会」に当たります。今後、5月から6月にかけて施策別部会と広報・見える化部会を開催します。そこでのご意見を踏まえ、6月～7月にかけて骨子案の内容を詰め、報告書を作成します。その後、7月末～8月上旬に第46回本会議を開催し、報告書の内容についての確認とご意見をいただく場を設けます。そして、最終的にまとめられた報告書は10月に発行予定です。 また、広報・見える化部会は随時開催し、調査部会は秋ごろの開催を予定しています。以上が今後のスケジュールです。 そして3点目、「横浜市環境管理計画素案」についてです。現在パブリックコメントを実施していますが、この素案では横浜市中長期的な環境目標や施策の方針を示しています。表紙下部にあるように、「カーボンニュートラル」、「ネイチャーポジティブ」、「サーキュラーエコノミー」、「それを支える人づくり」とい四つの視点から、横浜市の目指す姿を描き、かつ、水、生き物、脱炭素など幅広い内容を含む計画です。 施策2-2の「自然環境の保全・創出」には、みどりアップ計画で議論している緑の保全・創出の取組も位置付けられています。委員の皆さまもコメントを送っていただけますと幸いです。 最後に、みどりアップ計画に関する事務的な報告です。令和8年4月から、委員の皆さまにお支払いする報酬額を増額します。現在1万4000円のところを400円増額し、4月から、つまり施策別専門部会からの報酬は1万4400円となります。後日、通知をお送りしますので、ご確認願います。私からは以上です。
(事務局)	次に、GREEN×EXPO 2027についてのお知らせです。GREEN×EXPO 2027は、本日でちょうど開催まで1年となり、本日午後には、アトリウムで「1年前発表会」が行われます。 皆さまのお手元のボランティア募集リーフレットの中面に、会場全体図がありますが、右側の「横浜市出展エリア」に「フィールドを活用した活動拠点」という場所があります。右側に三種類のボランティア募集がありますが、特にこのボランティアに関する業務を主に担当しています。募集は7月頃から開始し、横浜市在住・在勤・在学の方が申し込めます。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。 また、ボランティアだけでなく、開催まであと1年となったGREEN×EXPO 2027の「横浜市民活動フィールド」やその他の取組についてのご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。以上です。
(池邊座長)	ありがとうございます。 GREEN×EXPO 2027全体のボランティア募集は4月30日から、横

	浜市出展エリアのボランティア募集は7月からということですね。 (事務局) そうです。 (池邊座長) ありがとうございます。 本日は少し時間が超過してしまい、申し訳ないです。内海副座長からの厳しいご意見もありましたが、満足度については今後の各部会で皆さまにぜひ、頑張っていたきたいと思います。それでは、事務局に戻します。 (事務局) 皆さま、本日もありがとうございました。 池邊座長のリードの下、委員の皆さまの熱心なご議論がなされました。また、事務局への励ましのお言葉まで頂戴しました。毎回この会議に参加するたびに、新たな気づきが得られます。そして、この会議は私どもにとって、日々の業務を客観的に見つめ直すための大変良い機会にもなっています。本日頂いたご意見・ご示唆をしっかりと受け止め、今後の取組に生かしていきたいと思ひます。 先ほどのスケジュール説明のとおり、今後の市民推進会議は、部会での議論を経て報告書の取りまとめへと進みます。引き続き、よろしくお願いいたします。 本日は長時間にわたり、ありがとうございました。 (一同) ありがとうございました。
資 料 ・ 特記事項	次第 資料 1 市民推進会議2025年度報告書（骨子案）